

“希望の牧場”から何を見る？

南相馬市（小高区）と浪江町（居住制限区域）とにまたがる“希望の牧場”を訪れました。2011年3月12日福島第一原発が爆発し多くの放射性物質が浪江町・南相馬市に降り注ぎました。多くの人々が故郷から避難しましたが（有）エム牧場の吉沢（吉沢牧場）さん達は、牛を餓死させるわけにはいかないと牛の飼育を続けています。

国は被ばくした牛肉が流通することを恐れてすべて殺処分するよう命じてきました。吉沢さんは①市場には出さない②市等自治体の管理を受ける③牛がこのような状況でも生きていく様子の調査・研究の三つの条件を提示して飼育することを認めてもらったとのこと。（「原発一揆」より）“原発爆発14km浪江町”“決死救命・団結そして希望へ”“殺処分反対”“東電・国は大損害つぐなえ”のローガンが板に描かれ牧場の入り口に提示されていました。国会前の集会でよく見る牛の電飾が乗っている軽トラックもありました。



広い牧草地には100頭ほどの牛が草を食べていました。（数百頭いるとのこと）原発事故がなければ豊かな自然の中で豊かな牛を育てて酪農経営をしていたはず。今でも空間線量は $0,931\mu\text{s v/h}$ を示していました。5年5カ月たっても国は何も責任を取りません。東電もだれ一人責任を負いません。・・・こんな日本社会（国家）は腐りきった社会以外の何物でもありません。「牛を餓死や殺処分ではなく第三の道に生かすために飼育」と言う吉沢さんの言葉の意味を深くかみしめていきたいと思われました。 $50\text{m s v} \sim 20\text{m s v}$ /年の居住制限区域で生命ある牛を飼育していくことの意味は・・・“決死救命”。

南相馬市小高区の居住制限区域・避難指示解除準備区域は平成28年7月12日に解除されました。飯館村でも帰還困難区域を除いて平成29年3月31日に解除予定とのこと。浪江町も来年春を解除目標としているとのこと。

浪江町は期間困難区域を除いてすべて道路のバリケードが外され日中は誰でも入れるようになっていました。除染作業をしている東照神社付近は $0,435\mu\text{s v/h}$ 。海側の請戸地区は $0,119\mu\text{s v/h}$ でした。海岸線にある請戸小学校は2011年3・11の状況のまま。海岸では9,2kmの防潮堤の工事（1km）が行われていました。津波で何もなくなった広い土地に請戸仮置き場がA～Gゲートと造られており大きな焼却炉も造られ稼働していました。

小高も浪江も除染作業が盛んに行われており、いたるところにフレコンパックの山。田んぼは耕されず荒れ地に草が繁茂しています。

早く緑豊かなふるさとを取り戻したいという思いと放射能への不安が錯綜し“帰還政策”に対しそれぞれの立場から問題が提起されています。“チェルノブイリの強制移住地域の汚染状況は $1,2 \sim 3,1\mu\text{s v/h}$ 、日本の避難指示解除区域は $2,28\mu\text{s v/h}$ ”をどう考えるべきか？

ちなみに徹底的に除染している高速道路常磐道でも、空間線量は、檜葉 $0,1\mu\text{s v}$ ～富岡 $1,6\mu\text{s v}$ ～大熊 $1,5\mu\text{s v}$ ～双葉 $3,5\mu\text{s v}$ ～浪江 $0,5\mu\text{s v}$ ～南相馬 $0,1\mu\text{s v/h}$ でした。南相馬桜井市長は「外野席で傷つかない立場で言うのではなく、その問題・課題が錯綜するフィールドの中で意見を言ってほしい」と課題の複雑さ困難さを訴えていました。

希望の牧場が文字道理希望となるには“原発事故の責任”“これまでの原発に寄りかかった生き方”を根本的に問う必要があるのではと思われま。